

令和5年度 第2回 帯広市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日 時：令和5年7月21日（金）10時00分～10時40分
場 所：帯広市役所10階 第5B会議室
出席委員：篠原会長、長沢委員、小森委員、道見委員、千葉委員、石崎委員、鈴木委員、塚本委員、皆川委員、久保委員、若杉委員、範国委員、永田委員（藤本代理）、佐藤委員、西島委員（泉代理）、加藤委員（以上16名）
アドバイザー：北海道大学大学院 工学研究院 岸 邦宏 教授
事務局：川角都市建築室長、岡田都市政策課長、高橋交通政策係長、熊谷主査、屋仲主任、豊田主任
配布資料：会議次第、出席者名簿（資料1）、帯広市地域公共交通計画(案)（資料2）、帯広市地域公共交通計画(案)概要版（資料3）、帯広市地域公共交通計画 原案（修正版）からの主な修正内容について（資料4）、パブリックコメントでの市民意見について（資料5）

【次第】

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議 事
 - (1) 協議事項
 - ・議案第1号 帯広市地域公共交通計画（案）について
 - (2) その他
 - ・今後のスケジュール及び計画策定後の進め方について
- 4 閉 会

【会議概要】

3 議事

- (1) 協議事項
 - ・議案第1号 帯広市地域公共交通計画（案）について

《事務局より資料2、資料3及び資料4に基づき説明》

(会長)

ただいまの説明について意見、質問等あるか。

《意見等なし》

(会長)

議案第1号について、本案のとおり決定するということによろしいか。

《異議なし》

(会長)

異議なしということで、本案のとおり決定する。

(2) その他

- ・今後のスケジュール及び計画策定後の進め方について

(事務局)

8月21日に帯広市議会 建設委員会が予定されており、本案を最終案として報告したい。

委員会での報告後、9月上旬を目途に計画策定し、策定後、国への計画送付を予定している。

計画策定後における進め方について、計画の各施策の具体的な取組について検討・協議するための分科会を設置し、計画の推進を図っていきたいと考えている。設置する分科会及び構成員については、9月頃を目途に事務局案を提示し、意見いただきたいと考えている。

分科会での協議内容については、来年2月予定の協議会において、今年度の計画進捗状況の中間報告と合わせて報告し、次年度以降の施策の取組方針について議論するためのタタキ台としたいと考えている。

(会長)

計画の推進にあたっては、皆さんと一緒に取り組んでいく必要があると考えているので、よろしくお願ひしたい。今後の進め方について、委員の皆さんからそれぞれ意見をいただきたい。

(委員)

分科会の中で計画の進捗報告をしていく、ということか。

(事務局)

そのとおり。加えて、具体的な施策の進め方などについても、分科会で協議できればと考えている。

(委員)

理解した。ぜひ参加したいと考えている。

(委員)

先日、市と打合せしたが、やはり乗務員不足であったり、一部バスが利用されていない地域において本当にバスが供給と需要とバランスが取れているのかなど、しっかり5年間の中で検討し取り組みを進めていき、新たな帯広市内の交通ができればというふうと考えている。

(委員)

ドライバー不足が何より一番深刻な影響があるので、まずは担い手の確保を進めていくことで、地域の公共交通が安定したものとなるかと思う。

(委員)

色々な課題が次々と出てきている状況なので、長期の計画のこともそうだが、直近のことも色々と市と協議しながら、利用者にとっても事業者にとっても継続的な利用、運行ができるよう取り計らっていただきたいと思う。

(委員)

本計画は市の公共交通が対象となるので、路線バスのことが主体となると思うが、我々は駅として運営していく中で、交通結節点ということで、駅を基点としたバスへのアクセスなどといった中で、より利用客にとってわかりやすく利便性の高いものを創り上げていきたいと考えている。

(委員)

今、バス事業者の各委員から話があったが、やはり近々の課題としては乗務員不足、これに尽きると思う。十勝地区バス協会は路線バス以外も貸切、観光等の会社も加入しているが、皆共通して同じ課題を抱えている。計画案では、我々が過去に行った合同就職相談会についても参考として記載されており、こういった取組も含めて、より実効性のあるものを検討していく中で、協力、参加していきたい。

(委員)

本年5月末にタクシー運賃が改定されてから1か月間の実績があったが、改定した運賃分の収益が上がっており、懸念されていた利用減少もなかった。タクシー事業者の方は、これで収支の方は一息ついたという感じだと思う。残る課題は乗務員不足、これに尽きると思う。今回、計画に取り組んでいく中で、乗務員不足対策等々について協議しながら取り組みを進め、実質的な乗務員確保につながればと思う。

(委員)

労働組合の立場から言うと、やはり運転手確保というのは喫緊の課題であると認識している。また、藤丸や長崎屋などのこともある中、現行の路線のままでよいのか、などといった不安要素は多々あると思う。そういった課題に対して、利用状況も含め、現状をきちんと把握することにより、帯広における交通網の整備をどうするか検討していくことが重要かと思う。現状のバス路線は、基本的に多くの方に利用してもらうことを目的として作られており、非常に複雑な運行の仕方となっているが、各交通事業者がハブでつながりながら、それぞれの地域を運行する、といった棲み分けがきちんとできてくれば、より効率の良い運行や輸送ができるのではないかと考えている。そういったことも今後議論ができればと考えている。

(委員)

我々現場で働いているが、どうしても気になるのは乗務員不足。これに伴い、休暇の少なさなどといった弊害が出てきているが、デジタル化によりいかに多くの人に利用していただけるかや、路線のあり方も含めて、今後は考えていかなければならないと思っている。

(委員)

今般、地域公共交通計画が努力義務化されたことにより、帯広市でも計画策定に向けた取り組みを進めてきたところ。せつかくこのような立派な計画を策定しようとしているので、是非とも関係機関が協力し合い、同じ方向を向いて目標を達成できるよう、我々支局としても、できる限り協力をしていきたいと思っている。

(委員)

振興局では、十勝地域公共交通計画を本年6月に策定したところで、帯広市地域公共交通計画と我々の十勝地域公共交通計画は車の両輪だと思っている。十勝地域の計画でも分科会などを設けて推進に向けて様々な議論を経て進めていきながら、帯広市の計画の方にも参画して取り組みを進め、地域の公共交通を維持、確保、発展できるよう取り組んでいきたいと考えている。

(会長)

帯広市の委員から、何か意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

ただいま委員の意見、事務局の説明があった中で、岸教授からコメントをお願いしたい。

(アドバイザー)

計画案が承認されたということで、地域公共交通計画の方向性は概ね固まったものと思う。

何名かの委員からも話があったかと思うが、ではこれを基にどうやって目標達成に向けて目指していくかというところが一番大事なところかと思う。バス事業者における路線の効率化とか、あるいは事業者間でやるべきことがたくさんあるかと思うが、この地域公共交通計画に基づいて皆さんで連携しながらやっていければと考えている。

私の個人的な思いとしては、道庁のシームレス交通戦略推進会議で十勝をモデル地域に十勝 MaaS の実証実験をしたものが、その後振興局に引き継がれるという話があり、今後本格的にどう動かしていくのかというところをずっと注目している。共創や、あるいは地域の輸送資源の総動員などと国の方で謳っているが、実はこの帯広・十勝は、それよりも先にいち早く目的地との連携や事業者間連携が進んでいる地域だと思っている。その完成形がおそらく MaaS という話になっていくのかと思う。アプリをどうするかということは技術的な話になってくるので、その時の議論かと思うが、目指していく方向性というのは、最後は十勝 MaaS でやっていた目的地や観光地、公共施設、医療、飲食店との連携などということと、それをどう活性化させていくかというところが私は一番大事と思っている。そこは改めて、振興局、帯広市、交通事業者の皆さんと、どうやったら進んでいくのかということの意見交換をできればと考えている。

(会長)

委員の皆さんの話にあったように、特に公共交通に関わる担い手、運転手不足というのは、この計画を進めていくにあたっての大きな課題となっていると理解しているところ。そこも含めながら、この計画をどのように進めていくのかというところを、しっかりと分科会などを通じて、皆さんと取り組んでいきたいと思っている。

今後のスケジュール及び計画策定後の進め方について、以上のとおりとしたい。

最後に、皆さんからご意見、ご報告などあるか。

《意見等なし》

(会長)

事務局から連絡事項などあるか。

《連絡事項なし》

(会長)

それでは、以上をもって第2回協議会を終了する。

《閉会》